



教育センターニュース

四日市市教育委員会 教育支援課
〒510-0085 四日市市諏訪町 2-2 (四日市市総合会館6階)
TEL 354-8283 (代) FAX 359-0280

ホームページ <http://www.yokkaichi.ed.jp/e-center/>



子どもたちの「問題解決能力」を育むために！

本市では、「問題解決能力」を子どもたちに育むため、「問題解決能力向上のための5つのプロセス（四日市モデル）」を活用した授業づくりを進めています。文部科学省においても、次期学習指導要領でアクティブラーニングの3つの視点を生かして、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を図ろうとしています。

その授業づくりを、平成28年度は、ガイドブック活用推進協力校（中部西小・海蔵小・大谷台小・塩浜中・山手中）、教育実践研究校区（橋北中学校区・富田中学校区）を中心に進めました。

今年度は、関係校の授業公開や関係する研修講座等に、延べ1,000名以上の参加者があり活発に協議しました。

授業改善をさらに促進するため、掲載する実践事例の教科の幅を広げた「ガイドブック2」を、今月末に発行します。これには、関係校を中心に、教職員と指導主事が協力してつくり上げた好事例を掲載しています。

この「ガイドブック2」を活用し、全小・中学校で授業実践を行い、「社会人になっても通用する問題解決能力」の養成につなげていきたいと思えます。

以下は、取り組みの概要を図示したものです。この図を参考に校内研修を計画し、研修の充実を図ってください。



■ 取り組み概要

「社会人になっても通用する問題解決能力」の養成

授業改善

指定校による研究推進

教育実践研究校区、ガイドブック活用推進協力校

- 研究推進（授業改善）
 - ・指定校への指導主事の支援・助言
 - 授業公開研修会の開催
 - 翌年度の夏季研修講座での実践紹介
 - より多くの学校を指定
 - ・教育実践研究校区の指定：2年
 - ・ガイドブック活用推進協力校：最長3年
- ※ 協力校においては、学校のニーズに応じた講師を招聘できたり、先進校を視察できたりします。

ガイドブックの活用

- 研修担当者研修会における啓発
 - ・ガイドブックを活用した校内研修会のあり方の提示
- 要請訪問における支援・助言
- センターニュースによる啓発
- 実践事例データベースの作成
 - ・指定校を中心に実践事例を収集

各小・中学校における授業改善

- P** 研修計画作成
 - 校内伝達研修会の開催（研修担当者研修会の内容を伝達）
 - 要請訪問における指導主事の活用（四日市モデルの解説を含む）
- D** 授業実践
 - 「四日市モデル」を指導案に位置付けた授業研究
- C** 自校の取り組みの振り返り
 - 夏季研修講座の受講
 - 授業公開研修会の参加
 - 校内研修会のまとめ（学校評価を含む）
- A** 次年度の校内研修に向けた改善
 - 成果と課題の集約
 - 次年度の方向性の決定

研究報告

各研究の詳しい内容は教育支援課までお問い合わせください。メールにて資料を送付いたします。



平成28年度、教育支援課で取り組んできた研究を報告します。それぞれの研究にあたり、御協力いただきました先生方及び学校・園、関係機関に心よりお礼申し上げます。この研究の成果が、今後の学校・園での実践に広く活用されることを願います。

第401集 研修・研究グループ 研修員 森 将司

小学校体育科における「対話的な学び」が活性化する指導に関する研究 — タブレットPCを効果的に活用した授業づくり —



執筆からの一言

次期学習指導要領が掲げる「主体的・対話的で深い学び」に向けた授業改善を考える上で、他教科同様、体育科においてもICTを工夫して活用することは有効だと考えます。そのためには、タブレットPC等を活用し、技能の向上に向けた情報を児童たちが主体的に学びとれる環境を整備することが大切です。そうすることで、教師は児童のつなぎ役として指導に集中できるのではないかと考えます。

小学校体育科の跳び箱運動において、仲間との「対話的な学び」を活性化するために、タブレットPCの効果的な活用とその有効性について検証しました。

タブレットPCに示範の運動を保存し「テキストツール」として活用したり、画像解析ソフトをインストールし「運動解析ツール」として活用したりしました。こうすることで児童たちは「対象の運動のイメージ」や「現状の自己や仲間の運動の様子」を正確に捉え、能動的に課題解決型の学習を進められることがわかりました。また、運動における身体の複雑な動きを言語化する際、保存した映像が、児童が表現する言語を補完し、コミュニケーションを促進させることもわかりました。

体育科において、児童間を媒介するツールとしてタブレットPCを活用することは、互いに高め合う関係を築き、仲間との「対話的な学び」を活性化させる上で有効であることがわかりました。

【児童の感想】

- ・一瞬の動きをゆっくり見ることできるから、いろんなことがわかりました。
- ・自分で自分の姿を見ることができて、跳べない理由がわかりました。
- ・タブレットPCを使うと、たくさんのアドバイスがグループのメンバーにできると思いました。
- ・タブレットPCを使った体育の授業は、運動することが苦手な私にも楽しく学習できました。

第402集 研修・研究グループ 長期研修員 大橋 玲子

中学校数学科における数学的な思考力を高める研究 — 日常生活の事象を数学と結びつけて —



執筆からの一言

本研究では、「OECDのPISA2012年調査評価の枠組み」で示された数学的リテラシーの定義の中にある「様々な文脈の中で、数学的に定式化すること」の具体的な活動と数学的リテラシーの基盤となる「基本的な数学的思考力」をもとに、本研究で育てたい力「数学的な思考力」【表1】を具体的に作成し、授業を行いました。

このように取り組むことで、「数学的な思考力」を高めることに有効でした。

身につけた数学的な知識・技能を活用して日常生活の事象を扱った問題を解決することが「数学的な思考力」を高めることに有効であることを検証しました。

本研究は中学校1年生の関数分野での授業実践です。身近な日常生活の事象を扱った問題を意図的に取り入れたことにより、生徒はよく似た経験をしていることから、問題に興味・関心を持つことができました。計算式、図や表を使い、どのように考えるとよいか、自分の思考を整理しながら試行錯誤し、他者と話し合い、問題を解こうとする姿が見られました。これは、数学の有用性や意欲的な態度、数学的な見方・考え方を育てるとともに、「数学的な思考力」を高めることにつながりました。

基本的な数学の能力	関数での具体的な数学的な知識・技能を活用する力
「数学化」 現実世界における問題の中で、関数の関係を見つけ、関数を使って考えること。	(A) 日常生活の事象の中にある数量関係から、「ともなうって変わる数量」を見つける。 (B) 日常生活の事象の中にある数量関係が、関数の関係であることを認識する。
「表現」 自分の考えを示すために、数量関係を表、式、グラフや数学的な用語で表現すること	(C) 「ともなうって変わる2つの数量変化」を表、式、グラフを用いて、数学的に表現する。 (D) 問題を数学の言語や表、式、グラフと相互に関連付けて表現する。

【表1】本研究において「関数分野で育てたい『数学的な思考力』」



不登校を未然に防止するための校内支援の研究 — 学級生活不満足群の生徒に焦点をあてて —

不登校を未然に防止するための校内支援体制のモデルを提案するために、校内支援体制のモデルの試行を行いました。

試行した結果、次のようなことを考えました。

- ① 不登校のリスクを持つ生徒を抽出する際は、Q-U検査や「小中不登校連携シート」だけではなく、中学校に入学後の情報も含めて、情報を整理し直すことが必要である。
- ② 不登校の未然防止の取り組みは、学年会を柱にして組織的に行われることが重要である。
- ③ 不登校を未然に防止するためには、どのような場面で支援が必要かを具体的に検討した上で、支援方法を提案していくとよい。

※上記の点をふまえて、校内支援体制のモデル試案を改良した校内支援体制のモデルと、情報を整理するためや組織的支援を行うためのツールとして、「アセスメントシート」と「支援シート」を作成しました。

すでに不登校になった生徒に対する支援も非常に大切ですが、生徒を不登校にしないという観点で、組織的な支援を行っていくことの大切さを感じています。

また、そのような支援の場で「アセスメントシート」と「支援シート」を活用していただければと思います。



※「研究調査報告」「研究概要」は、「四日市市教育センター・視聴覚センター」ホームページの「文書等ダウンロード」からデータをダウンロードすることができます。

教育支援課 研修・研究グループより

計画的な研修推進により、教師力(資質・能力)の向上を！

『教職員の資質・能力の向上』

「第3次四日市市学校教育ビジョン」より

教育への情熱、豊かな人間性や確かな教師力を持った教職員を育成するために、教職経験年数（ライフステージ）や職務に応じた資質・能力の向上を目的とした教職員研修の充実を図ります。

また、教職員の実践的指導力の向上を図るために、学校におけるOJTの活性化を支援します。

☆ 年間を通じ、PDCAサイクルにて計画的に実践や研修を行います

P 自己分析と計画立案

「教師力向上のために」等のチェックシートを活用して自己分析し、現状を把握するとともに、自分のライフステージにおいて、身につけるべき資質・能力を見極めます。具体的な研修計画を立案します。

D 研修と授業実践

立案した年間研修計画に基づき、継続的に実践します。研修講座で学んだことを自らの実践に生かします。また、各学校や学年においてOJTによる日常的な研修を推進し、互いの教師力を向上させます。

C 研修の実践と振り返り

自身の実践や研修を客観的に振り返るとともに、自らの弱みの改善や、次の実践に生かします。年度末には、自己評価するとともに、他者と対話して、成果と課題について振り返ります。

A 成果と課題の整理

年度末の振り返りで、次年度に改善すべき課題を整理します。また、振り返りで明らかになった自身の成果と課題を、次年度の課題設定・年間研修計画立案に生かします。

☆ 取り組みの3つのポイント

1. 「問題解決能力」「主体的・対話的で深い学び」等を意識した授業づくりを、研修計画に位置付けます。
2. 授業公開、授業参観、研修講座の受講等を、研修計画に位置付け、継続的に実践します。
3. 各校・各学年内において、OJTを活用した研修を実践し、互いの学びを深めます。

※「教師力向上のために」は、学校掲示板のデータベースに掲載してあります。ご活用ください！

(070. 教育支援課 -030. 教職員研修 -080. -090.)

教育支援課 特別支援教育・相談グループより

校内相談支援体制の充実を！ 校内コーディネーターの力量UPを！



平成 28 年 4 月 1 日から障害者差別解消法が施行されました。合理的配慮の提供については、保護者の申し出が合理的配慮に当たるかどうか、学校でできることやできないこと等を校内委員会で話し合い、保護者に丁寧に説明をする必要があります。

また、合理的配慮の提供の際、子どもの実態把握を十分に行い、子どもの見立てと適切な支援を考えるとともに、PDCA サイクルで見直しをしていく必要があります。

そこで、中心的な役割を果たすのは、校内コーディネーター（Co.）です。校内の相談支援体制を構築・充実させるための新しい取り組みが始まっています。

特別支援教育に関する専門性を高めるため

特別支援教育指導者養成研修講座

1 年目は、夏季・冬季休業日等に 6 講座を開講し、2 年目は地域 Co. に同行する等の実地研修を 6 回実施しています。これまでに 3 年間で、24 校、計 30 人が受講しています。

平成 29 年度からは、募集人数を 20 人に増員し、3 か年で各校 1 人以上の参加とします。

早期からの支援体制構築のため

小学校生活スタート支援事業

この事業は、通常の学級への就学が見込まれる特別な教育的支援が必要な子どもへの支援について、小学校が主体となり、幼稚園・保育園と連携して、早期から計画的・段階的に取り組むことを目的としています。

平成 28 年度モデル校 6 校には、週 2 時間の非常勤講師を配置し、校内 Co. の活動時間を保障するとともに、協力員を派遣して、見立てや支援について助言しました。

平成 29 年度は、モデル校 9 校となります。

校内 Co. の専門性向上のため

校内 Co. 実地研修

小学校校内 Co.：就学相談の観察に同行して、調査員から子どもの見立てや学校でできる支援について学ぶという研修を実施しました。

中学校校内 Co.：校区の 6 年生の観察を行い、協力員から子どもの見立てや学校でできる支援について学ぶという研修を実施しました。

平成 29 年度も同様の研修を行います。

校内で効果的な支援を提供するため

校内通級支援事業（試行）

平成 29 年度からの取り組みで、通常の学級に在籍する、発達障害をはじめとする障害がある児童生徒に対して、週 1 時間程度の校内通級指導を行います。

モデル校小学校 5 校において実施し、4 年間で 20 校実施することになります。